2025年２月４日 『朝礼時講話～連絡事項』

(1) 講話概略【人生の節目を考える】

今年の節分は数年ぶりに２月３日ではない２日でした。豆まきも２日に行いましたが、お手玉(豆の代わり)を鬼役に投げつけるお年寄りたちの喜び様というか興奮している姿に、観ていてこちらの方も嬉しくなりましたね。この節分は冬と春の変わり目、節目の日を指す訳ですが、豪雪の西和賀においてはまだまだ暦上の春を言われても、しっくりこないのが正直なところであります。

さて、今日はこの「節目」について少しお話ししてみたいと思います。

先月は、N.W さんと C.S さんの看取りがございました。N さんは約 10 年、C さんは約 20 年光寿苑で生活された、光寿苑の顔的存在の方々でありますので、お二人とのお別れは、１つの時代が終わったという節目の時を感じるものでした。どちらも穏やかで、眠るようなご逝去でしたので、より温もりを感じる看取りとなりました。現場の皆さん、本当にこれまでおかげさまでした。

C さんについては、インフルエンザに罹患され、その後、S 病院にて入院治療の時間があった訳ですが、S 病院から「苑に戻り、住み慣れた場所で看取ってもらうのはいいのでは…」いうご提案頂き、即座に受入れの考えを現場が表してくれたのも嬉しい事でありました。

この事について O 病院長より、以下のようなありがたいお言葉を賜っています。

「施設とご家族のご意向により、光寿苑さんにお帰りになりましたが、残り少ない時間を、住み慣れた場所で過ごすという選択、素晴らしいと思います。今回の対応に対して、当院スタッフからも称賛の声が上がっていました。施設のスタッフの皆さんの思い、私たちもしっかりと受け止めさせていただきました。」

実はこの決断には、大きく２つの理由が存在していました。「**あと数日…**」というドクターの見立てがあった事も勿論ある訳ですが、C さんの入居生活が始まった平成 19 年の冬、その頃は光寿苑で「**命のしゃべり場**」(どこで・誰の傍で・どのような最期を迎えたいか)を展開していた時期です。C さんはその年、『最後は家で…』と言っていました。しかし、翌年のしゃべり場では、

『前は「家で」って言ったけど、やっぱり光寿苑でいいです。家だと娘に負担掛けてしまうから…』

と、大事な娘さんを案じる気持ちと共に考えを語ってくれた事がありました。それからの C さんの苑での暮らしは、自分の事は自分でやり、自分の楽しみを自分で見つけて直向きに取り組んでいらして…。一方で娘さんを案じる姿がいつもあって、尊敬の念を懐いてきたものでした。

そんな思い出と共にお迎えして２日後、案じていた娘さんが寄り添う傍で、眠るように息を引きとられました。最後の２日間の C さんは、意識もハッキリされていて、声は出ていませんでしたが、会いに行く度、感謝の表情と言葉(口の動きで表現)で私たちに伝えてくれていました。息を引きとられる約 10 時間前、会いに行くと、手を差し伸べてきた C さん。除雪後で手が冷えていた私は一瞬躊躇しましたが、『冷っこいよ…いい？』と言って手を差し出すと、私の手を握った C さんは目を見開き、『冷っこい！冷っこいごど…』と仰ったのです。泣きそうになった瞬間でした。

その後、『ありがど…』と言って微笑んで下さり、最後の姿も、本当に尊きものでありました。

沢山の思い出と、温かい心を残して下さったお年寄りたちの看取りを通じて、今日は『**人生の節目**』を考えてみました。

(2) 連絡事項

【講話 ＝ 理事長、 ①～③ ＝ 生活課長、 ④ ＝ 医務】

① 今日付けで、K.S さんが施設入居となります。11 時苑迎えです。

② 予定通り、８日の雪あかりイベントに向けて、光寿苑でも雪あかりを作る予定です。これまでに比べて見劣りするかもしれませんが、まずは取り組んでみますので宜しくお願い致します。
併せて、雪あかり鑑賞ドライブも予定通り実施します。後に詳細をお知らせ致します。